



## ふれあい人権講座 第10回 男女共同参画

「森林と共に生きる人々」  
〜林業の最前線と  
トナカイと暮らす人々〜

日南町役場 地域林政アドバイザー

林業アカデミー専任教員

小菅 良豪さん  
こすか よしたけ

日本の林業は、伐採からはじまり、育てやすい杉やヒノキを植えてきた歴史があります。林業の現状は、木材の生産は2000年以降増加傾向で、木材価格は下げ止まりで、1本の木の価格が下がったので生産量をあげて、生産コストを下げる。この2つのところに力を注いで対抗しているのが現状です。その中で機械化が進んでいます。実際林業で働いている人は減っています。女性の割合はここ5年微増傾向です。

緑の雇用という新しい制度ができ、都会の人が林業の職に就くこと



ができるようになりました。新規雇用者は、3,000人前後が見込まれています。資格を取る補助が国から出ることによって、インターンの就業が増えました。

なぜ林業において女性の就業者が減ったか、昔は木を植えたり木の枝を切ったりする軽作業があり女性が活躍していた。木が成長していくことよって、そういった仕事が少しずつ減って職種の変化によって、女性の仕事が減っていった状況があります。特に女性の方が都会での求人が多いこと、また所得も圧倒的に多いことからそちらに流れた傾向があります。

木の成長と共に作業内容が変わり、林業機械の登場によって重労働は緩和されました。女性でも使うことができるので、働く女性が増えていくのではないのでしょうか。森林管理はIT技術を持っている人が重宝される時代ですので、そういった女性の

方もいるのではないのでしょうか。女性同士のつながり、情報共有はインターネットとSNSによりできやすくなり、困ったときの情報交換はインターネット上で行えることも大きなメリットになります。

大学でも森林系の女子が増えています。自然環境を守りたい人が増えたことが理由に上げられます。今の林業は、植え付けから機械の操作まで、女性でできます。更なる林業における機械化で、パワースーツの開発やITによる森林管理が急増することで、現場作業員における男女の格差がほとんどなくなり、自然の中で子どもを育てたいという思い、他の山村地域の産業よりも賃金が高いところが魅力になります。

ただし、日給月給が多く怪我や病気によって、所得の変動が激しいことがあります。また肉休労働なので妊娠すると即休業になり、そうした時の収入の保障が今後の課題になります。最近では林業女子会が全国24都道府県、外国でも行われています。元々京都で行われたのが始まりです。森林を学ぶ学生さんたちが、集まって林業の体験をしたり、木材や建築に関わる人などと情報交換をしています。

活動内容は、イベント開催、情報誌の発行、グッズ販売、勉強会、軽食などお茶会と様々な取組が行われています。鳥取県では主に東部で活動を行っています。機械化がどんど

ん進歩していることもありませんが、林業の造林作業、苗木の植え付けや下刈りは、重労働がまだ残っています。それに対応するためのパワースーツが2025年に販売開始になります。ますます男女の格差がなくなるのではないかと話されました。日南町にも「にちなん中国山地林業アカデミー」が平成31年4月に開校します。これからは、自然の中で働く女性がますます増えていくのではないのでしょうか。

## 第12回ふれあい人権講座 のお知らせ

### 異文化交流（食文化）

日南町下石見 原田 愛さん

今回は中国料理（ローユビン・餃子）を受講生の皆さんと共に作って交流を深めます。異なる文化を体験し、理解し、共感することができればと思います。食事、風習などを体験し、お互いが学び合います。

参加費（材料費1人300円）マス

ク、エプロン、三角巾をお持ちください。

日時 3月12日(火)

18時30分〜20時

会場 町人権センター

申込 3月8日まで（先着15名）

申込・お問い合わせ

人権センター

TEL 821-0076

